

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 50 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2012 年 2 月 28 日 (火) 13:30～15:55
2. 場所 5 東洋海事ビル会議室 D
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)
(出席委員) 有富 (部会長), 河西 (副部会長), 加藤 (幹事), 天野, 内山, 大久保, 小畑, 金木, 川上, 川村, 木倉, 坂下, 仙波, 高橋, 仲神, 中島, 深澤, 藤田, 丸岡, 柳原, 山本 (21 名)
(代理出席委員) 東 利彦 (関西電力(株)/浦上代理), 井上 和久 (国土交通省 海事局/重入代理), 吉原 恒一 (原技協/新堀代理) (3 名)
(欠席委員) 長崎 (1 名)
(委員候補) 平井 輝幸 (電気事業連合会) (1 名)
(欠席常時参加者) 菊池 (1 名)
(説明者) 中居 (LLW 処分安全評価分科会委員)
高瀬 (LLW 処分安全評価分科会委員)
(2 名)
(オブザーバ) 関口, 池田, 遠藤, 安田, 北島 (5 名)
(事務局) 谷井
4. 配付資料
 - FTC50-1 第 48 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
 - FTC50-2 人事について (サイクル専門部会)
 - FTC50-3 「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順: 201X」 公衆審査結果
 - FTC50-4 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 201*」 2 回目の原子燃料サイクル専門部会決議投票結果
 - FTC50-5-1 標準委員会の今後の活動のあり方について 中間報告 (案)
 - FTC50-5-2 原子燃料サイクル専門部会標準の発行状況 (2012. 02. 28 現在)
 - FTC50-6 標準策定スケジュール (案)
 - FTC50-7 「浅地中ピット処分の安全評価手法」
 - FTC50-8 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況
 - FTC50-9 標準委員会の活動状況

参考資料

- FTC50-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC50-参考 2 2012 年春の年会 (3/19-21) 企画セッション提案書
極低レベル放射性廃棄物のトレンチ処分に向けた標準の整備状況

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時、25名の委員のうち、代理委員を含め24名の出席があり、成立に必要な委員数(17名)を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 有富委員の新聞記事報道に対する説明

有富委員の新聞記事報道に対する説明があった。

(3) 前回議事録の確認

前回議事録(FTC50-1)が承認された。

(4) 人事について(専門部会人事, 分科会)

事務局から、FTC50-2-1に沿って、白井委員の退任の報告がされた。

事務局から、FTC50-2-1に沿って、平井 輝幸氏(電気事業連合会)が新委員として推薦されていると紹介され、決議の結果、承認された。

さらに、事務局から、FTC49-2-1に沿って、加藤 和之氏の電気事業連合会から日本原燃(株)への所属先の変更について報告され、決議の結果、承認された。

(5) 「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：201X」の公衆審査結果について

事務局から、FTC50-3に沿って、「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：201X」の公衆審査において、意見がなかったことが報告された。

(6) 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準(改定版)」標準委員会投票結果及び意見対応について

事務局から、FTC50-4に沿って、「「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：201*」の2回目の原子燃料サイクル専門部会決議投票において、可決されたことが報告された。

(7) 標準英訳化優先順位付け

事務局から、FTC50-5-1及びFTC50-5-2に沿って、原子燃料サイクル専門部会関係で発行済・発行準備中・公衆審査済等の標準について報告された後、審議の結果、各分科会に持ち帰り、各分科会で優先順位をつけた上で、次回の専門部会で報告されることが決議された。

(8) 標準策定スケジュールについて

事務局から、FTC50-6に沿って、原子燃料サイクル専門部会標準策定スケジュールについて報告され後、審議の結果、以下の標準策定スケジュールを6カ月遅らせる修正を行った案を、標準委員で諮ることが決議された。

再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順

(9) 「浅地中ピット処分の安全評価手法」本報告について

LLW 処分安全評価分科会川上主査，山本幹事並びに中居委員，高瀬委員から，FTC50-7 に沿って，「浅地中ピット処分の安全評価手法」について本報告された。

審議の結果，原子燃料サイクル専門部会決議投票へ移行することが決議された。

主な質疑内容は以下のとおり。

- ・説明資料の P.3 の解説図 4 で，データが不十分な場合の変動シナリオで用いる値を範囲の右端と考えると，安全審査の基本的な考え方よりも厳しくなるのではないか。
⇒変動シナリオでは図で示した範囲を網羅的に考えるということであり，範囲の中の最も保守的なところ（右端）で考えるということではない。
- ・データが不十分な場合の範囲設定を図の青い矢印で示しているが，その考え方や手順は，本体の記載のどこに相当するのか。
⇒この図は，基本シナリオと変動シナリオの区別をどう考えるかを説明するもので，標準案では解説に記載している。
- ・この資料では，解説図 4 が箇条 6 の本体の説明に見えるので，今後，要約的な説明資料を用意する際は，本体の記載と分けた場所に記載した方がよい。
- ・説明資料の P.4 の図 7-1 でガスの移行経路も含まれているか。
⇒主要な経路ということで，この図ではガスの移行経路は含まれていない。
- ・説明資料の P.3 の図 6-1 で状態設定の手順を説明しているが，附属書に記載の要因分析や FEP リストとどのような関係にあるのか分かりにくい。
⇒標準案では各附属書の位置づけを説明しているが，今後，要約的な説明資料を用意する際は工夫する。
- ・3.11 以降，今回の大震災を受けて，操業中の評価などで考慮したものはあるか。
⇒地震や津波は直接，明示的に扱っていない。基本的に操業中の安全評価に大きな影響は生じないと考えている。
- ・説明資料の P.3 の 5.2 で，最大値が出現するまでの期間を評価期間に含めるとあるが，最大値が出現した後も評価を行うのか。
⇒最大値の出現後も，そこが最大値であることを確認できるまで評価を行う必要がある。
- ・説明資料の P.4 の表 7-1 では，内部被ばくと外部被ばくのどちらに重きを置いているのか。
⇒外部被ばくと経口摂取，吸入の内部被ばくを同じ扱いで考慮している。
- ・テロ行為やバリアの喪失等，極端な例は想定しているか。
⇒ピット処分では，稀頻度事象までは考えていないが，バリアの一部喪失については変動シナリオでカバーしている。
- ・濃度が低いため，余裕深度処分からピット処分に回った廃棄物（例えば濃度的な条件を満足する放射化金属）なども考慮しているか。
⇒安全審査の基本的な考え方に従い，ウラン廃棄物以外を対象としている。
- ・標準案の P.165～166 で，国際機関の文書が紹介されているが，改定作業中との説明もあり，内容が陳腐化するのではないか。
⇒発行年が入っており，標準を策定した時点での国際情勢ということで，問題ない。

- ・英文のまえがきのところなどで、標準が IAEA の安全要件のどの部分に整合してつくられているのか、といった説明が必要ではないか。
- ⇒英文のまえがきでは、準拠しているのは NSC（原安委）の安全審査の基本的な考え方であることを明記している。
- ・標準の計算は廃棄体ごとの評価に対応したものになっているか。
- ⇒標準は計算の考え方を示したものであり、個々の廃棄体の評価にまで踏み込んでいない。

6. その他

次回は平成 24 年 5 月 29 日（火）と仮決めされた。